

「3Sサミット2014」参加 職場の環境改善 快適に効率良くを実現する 3S活動のススメ

筆者：営業支援課

開始から一年。3S活動とは

「3S」という言葉を初めて聞いた方もいらっしゃるのではないでしょうか。私も「4Kなら聞いたことあるけど…」といった感じで、まずその意味の説明を受けたことを思い出しました。3Sとは、事務所や作業場、オフィスなどの職場環境を改善するために掲げられた、3つのキーワードである「整理」「整頓」「清掃」の頭文字で、手に取って使うモノの管理や保管方法だけにとどまらず、店舗周りの敷地の整備やパソコンの中にあるデータ情報の保存管理など、業務に関係するあらゆるものごとに対して「整理」「整頓」「清掃」を徹底することで、作業のスピードアップや効率アップ、正確性を向上させようという考え方です。

MANIXでも2013年の10月から「兵庫3S研究会」の活動の輪に加わり、社内で本社を含む3店舗（芦屋店・明石店）をピックアップして3S活動に取り組み、職場の環境改善を進めてきました。

「共有」と「ルール」の再確認

3S活動の指導をいただいている枚岡合金工具株式会社の古芝会長は、月に一度ある定例会でこんなふうにおっしゃっていました。

「整理・整頓・清掃って小学校の先生から言われたようなことを実行するだけで、何が変わるのかと思われる方もいるかもしれませんが、それを徹底的にする。会社や営業所ごとでも、メンバーみんなまで共通のルールを作って、それをきちんと守る。きちんと守っていれば作業場が汚れることもないし、清々しい気持ちで仕事ができるから、みんなの顔も明るくなってきます。」

3S活動のポイントは、この“メンバーみんなで共通する”というところにあると思います。個人で身のまわりを片付けるのであれば、それぞれのタイミングで自由に開始して完結できそうですが、全員が共同で使っているモノや場所に関しては、そう簡単にはいきません。気づけば誰かがやるだろう…。いつもこの辺りにあるから置いておこう…。そんな感覚的な管理の積み重ねが、あっという間に混沌とした状態を作りだしてしまいます。そうしない、させないためには、まず、どんな状態が問題であるのかを書き出したり、写真に撮るなどの方法で目に見える形にして、それをメンバー全員で確認することが重要です。実際に本社の3S作業でも、何に使うのか分からないモノや何となく置いていたモノ、壊れたモノがどれだけあるのかをメンバー全員が把握し、必要なものを残して不要なものは捨てるということからスタートしました。

「見える化」することの大切さ

3S作業を進めていくと、「なるほど」と目からウロコが落ちる瞬間に遭遇します。その中のひとつに、“廃棄物の量をはかる”ということがありました。単に、不要と判断して捨てることになったモノの重さを記録するだけなのですが、具体的な数字として現れると、それがいかに多いのかを認識し、日を追うごとに少なくなる様子を再確認するだけでも達成感を持つことができました。これはゴミの量を「見える化」した例ですが、3S活動では、このほかにも、作業時間を記録したり、項目ごとにポイントをつけて進捗状況をグラフにあらわすなど「見える化」することで計画的に「整理」「整頓」「清掃」を実行していきます。（具体的な作業内容や改善の様子は、書きだすと長くなりそうなので、別の機会に詳しくご紹介できればと思います…。）

成果発表、初参加の“3Sサミット”

昨年の11月に、開催された「3Sサミット2014」では、「兵庫3S研究会」の代表として一年間の活動成果を発表しました。

サミットに参加したのは、兵庫県や広島県、宮城県、四国でそれぞれにグループを作って活動している3Sネットワークの代表、総勢32社の企業です。業種は、保険労務士事務所や食品の加工販売店、建物メンテナンス会社などさまざまで、3S活動を開始して1ヶ月という会社もあれば、10年以上続けているところもあります。

成果報告のプレゼンテーションを行ったのは、MANIXを含めた6社のみですが、講評を通して、いろいろな意見が飛び交い、社内だけでは解決できずに滞っている問題点や、日頃の活動から出てきたアイデアなどを共有しながら、たくさんの情報を交換することができたと思います。そして何より、「自分たちの力で職場を良くしていく」という共通の目標を持った仲間と交流することで、気持ちとパワーが充電できて、“3S活動、また頑張ろう!”と活力が湧いてきました。

活動の継続

さらに昨年の10月からは、宝塚店と姫路店が3S活動を始めました。

定例会での発表に向けてルール決めや計画、実行と活動報告のまとめなど、やらなければならないことはたくさんありますが、快適な店舗を実現するために日々奮闘中です。来店いただくと、事務所内のレイアウトが変わっていて驚く…なんてこともあるかもしれませんが、皆さまも、そんな小さな変化を発見して楽しんでいただければと思います。